

## 公益財団法人 前川財団セミナー

子育てがなかなか容易ではない時代になっています。子育ては「親の責任、家族の問題」という考えが根深くありますが、実は人類の歴史のなかで、親だけで子育てした時代はないのです。〈子どもはみんなで育てるもの〉というのが、人間社会の本来の姿でした。ここで、子どもに接するだれもがそなえる資質を仮に「親性」と名づけ、「親性」の観点から子育ての新しいあり方とそれを支える意識について考えてみましょう。母親/父親に限らず、子どもに接するだれもが「親性」を身につける—そのことで、人間社会の本来の姿がどのように描き直せるのか、皆さまとともに考えてみたいと思います。

今回は、『「親性」ってなんだろう?』をテーマに、「親性」について長年研究に取り組んでおられる先生方をお招きして、これからのあるべき子育てについて、議論したいと思います。

2024/11月23日(土) 13:00~15:00

【開催方法】会場(定員20名)とZoomウェビナー **参加無料**

【開催場所】大手町ファーストスクエアカンファレンス Room D  
東京都千代田区大手町1-5-1 大手町ファーストスクエア イーストタワー 2F  
◎ JR 東京駅 丸の内北口(徒歩4分)  
◎ 東京外口 大手町駅(C8・C11・C12 出口直結)

「親性」ってなんだろう?  
子育てしやすい社会をめざして

### 何が親を支えたのか? 誰が子どもを育てたのか? —昭和の「親性」環境



#### パネル.1

#### 山名 淳氏

東京大学教育学研究科  
教授

広島大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。  
専門は教育哲学、思想史研究。

神戸市外国語大学、東京学芸大学、ベルリン・フンボルト大学、京都大学を経て現職。主な著書に『夢幻のドイツ田園都市—教育共同体ヘレラウの挑戦』(ミネルヴァ書房)、『都市とアーキテクチャの教育思想—保護と人間形成のあいだ』(勁草書房)、『もじゃペー』(くしつけ)を学ぶ—日常の「文明化」という悩みごと』(東京学芸大学出版会)、『言葉とアートをつなぐ教育』(晃洋書房)ほか。

### 子育てが「近代的」だったことはない—みんなの「自分事」へ



#### パネル.2

#### 弘田 陽介氏

大阪公立大学文学研究科  
教授

京都大学大学院教育学研究科博士課程修了。博士(教育学)。  
専門は教育哲学、実践的身体教育論、子どもと保育のメディア論。

徳島大学、大阪城南女子短期大学・大阪総合保育大学、福山市立大学を経て現職。主な著書に『近代の擬態/擬態の近代—カントというテキスト—身体・人間』(東京大学出版会)、『電車が好きな子はかしくなる—鉄道で育児・教育のすすめ』(交通新聞社新書)、『いま、子育てどうする? 感染症・災害・AI時代を親子で生き抜くヒント集35』(彩流社)ほか。



#### ディスカッション

コーディネーター

#### 辻本 雅史氏

中部大学 顧問  
京都大学 名誉教授

京都大学大学院教育学研究科博士課程退学。文学博士。  
専門は日本教育史、思想史。

京都大学、台湾大学、中部大学などの教授を経て、現職。主な著書に『「学び」の復権—模倣と習熟』(角川書店、岩波現代文庫再刊)、『江戸の学びと思想家たち』(岩波書店)、『教育を「江戸」から考える—学び・身体・メディア』(日本放送出版協会)、『近世教育思想史の研究—日本における「公教育」思想の源流』(思文閣出版)ほか。

#### 〈お申込方法〉

参加申込はWebにて受付いたします。下記のURLまたはQRコードよりお申込ください。  
[https://www.mayekawafoundation.org/seminar/seminar\\_20241123.html](https://www.mayekawafoundation.org/seminar/seminar_20241123.html)

※申込締切/2024年11月20日まで



主催/公益財団法人 前川財団